

# 研究所だより

第492号  
2025年12月4日  
発行：土佐清水市教育研究所  
TEL 82-3015

“山は白銀(しろがね)朝日を浴びて  
すべるスキーの風きるはやさ  
とぶは粉雪(こゆき)か舞い立つ霧か  
おおおこの身もかけるよかける”

『スキー』 1942年(昭和17年) 文部省唱歌



～冬の到来 おおさむこさむ～

今年もはや12月。暦の上では7日は「大雪」です。「北風が吹いて雪が激しく降り始める頃」という意味で「大雪」とされています。江戸時代の暦の解説書『よみ便覧』では「雪いよいよ降り重ねる折からなれば也(雪が勢いを増して次々と降り積もる様子)」と説明されています。この時期から日に日に寒さが厳しくなっていきます。またブリやハタハタなどの冬の魚の漁が盛んになります。冬が深まっていく季節、栄養豊富な旬の食べ物をたくさん食べて、体の芯から温まって元気に過ごしましょう。そして、引き続き感染症対策も心がけましょう。

\*便覧(べんらん・びんらん両方の読み方がある。古い辞書ではべんらんが多い:手引き)

「指導と評価」2025.12月号より(抜粋)

通常学級の特別支援教育

インクルーシブな指導行動とその背後にある指導意識

神奈川県立保健福祉大学教授  
ふかざわ かずひこ  
深沢 和彦

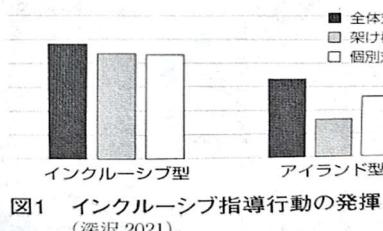
1 インクルーシブな学級の担任教師はどんな指導をしているのか

インクルーシブな学級を構築する担任教師の指導行動は、大きく三つの指導行動にわけることができる(表)。「①全体対応」(対象児を受け入れる環境としての学級を育成することを意識した対応)、「②架け橋対応」(対象児への理解を周囲に促し、対象児を学級の中に位置づけようとする対応)、「③個別対応」(対象児に個別にかかわり、対象児が学級に適応することを意識した対応)である。

表 インクルーシブ指導行動(深沢・河村,2020)

対象児の保護者のうらさに寄り添って話を聞く。	◆ 全体対応		
	◆ 架け橋対応	◆ 個別対応	◆ 個別対応
● 対象児の保護者のうらさに寄り添って話を聞く。	活動の前には、学級全体に、目標やめあてを決めさせて、確認する。 ● 学級の子どもたちに必要な力や育てたい力を考えて、活動を仕組む。 ● 子どもがいろいろな人とかかわるようグループの編成を工夫し、メンバーどうしが仲よくなれるような活動も設定する。 ● アンケート調査の結果から、学級の子どもたちの内面を知る。	● 対象児が、苦手の克服に向けて努力している最中で、活動を仕組む。 ● 子どもがいろいろな人とかかわるようグループの編成を工夫し、メンバーどうしが仲よくなれるような活動も設定する。 ● アンケート調査の結果から、学級の子どもたちの内面を知る。	● 対象児用の特別ルールには、周囲の児童が「する」と思わないように、特別な支援を必要とする。 ● 対象児の不可解な行動の背景にある思いを周囲が納得できるように説明する。 ● 対象児が、苦手の克服に向けて努力している最中で、活動を仕組む。 ● 子どもがいろいろな人とかかわるようグループの編成を工夫し、メンバーどうしが仲よくなれるような活動も設定する。 ● アンケート調査の結果から、学級の子どもたちの内面を知る。
● 対象児が活躍できる場面や苦手な場面を把握する。 ● 対象児が活躍できる場面や苦手な場面を調整して、対象児がうまくできるよう工夫をする。 ● 困ったときは、校長やほかの教師に相談し、援助を求める。	● 対象児用の特別ルールには、周囲の児童が「する」と思わないように、特別な支援を必要とする。 ● 対象児の不可解な行動の背景にある思いを周囲が納得できるように説明する。 ● 対象児が、苦手の克服に向けて努力している最中で、活動を仕組む。 ● 子どもがいろいろな人とかかわるようグループの編成を工夫し、メンバーどうしが仲よくなれるような活動も設定する。 ● アンケート調査の結果から、学級の子どもたちの内面を知る。	● 対象児用の特別ルールには、周囲の児童が「する」と思わないように、特別な支援を必要とする。 ● 対象児の不可解な行動の背景にある思いを周囲が納得できるように説明する。 ● 対象児が、苦手の克服に向けて努力している最中で、活動を仕組む。 ● 子どもがいろいろな人とかかわるようグループの編成を工夫し、メンバーどうしが仲よくなれるような活動も設定する。 ● アンケート調査の結果から、学級の子どもたちの内面を知る。	● 対象児用の特別ルールには、周囲の児童が「する」と思わないように、特別な支援を必要とする。 ● 対象児の不可解な行動の背景にある思いを周囲が納得できるように説明する。 ● 対象児が、苦手の克服に向けて努力している最中で、活動を仕組む。 ● 子どもがいろいろな人とかかわるようグループの編成を工夫し、メンバーどうしが仲よくなれるような活動も設定する。 ● アンケート調査の結果から、学級の子どもたちの内面を知る。

インクルーシブな学級をつくる教師は、これらの三つの指導行動をバランスよく高いレベルで発揮しており、特に「架け橋対応」の発揮量が多いという特徴がある(図1)。「架け橋対応」は、教師が子どもの代弁者あるいは通訳となり、学級集団(小さな社会)という対象児をつなぐ、アドボカシーの機能をもつ。



## 2 鍵は指導行動の背後にある指導意識

では、架け橋対応を行えば、だれでもインクルーシブな学級が作れるかというと、ことは簡単ではない。現場の先生方にインクルーシブな指導行動について具体的に説明し、実践を促したところ、大部分の教師は「同じようにやっているつもりなのに何か違う、うまくいかない」という思いを抱いた。

その原因としては、教師の指導行動が個々の児童に応じたものになっておらず、適時適切に行われていないことが、教師の違和感につながっている様子が観察された。

教師は、場面状況や対象によって、臨機応変に指導行動を調整し、千差万別に子どもに対応しているが、そこで表面化する行動や態度は指導意識の違いによって生み出されている。つまり、一つ一つの指導行動の背景には、個々の教師の信念があり、それが暗黙裡に教師の指導行動を規定している。そのため、行動だけを変えようとしても意識とチグハグさが残ってしまうのである。

そこで筆者は、教師のインクルーシブ指導行動の背景にある指導意識として、「管理意識」と「認知的共感性」の二つを取り上げ、インクルーシブ型学級とアイランド型学級の担任教師の指導意識を比較した。管理意識は学級を管理統制しようとする意識であり、認知的共感性は子どもの特性や置かれた状況を理解し、その子の立場になって気持ちを想像しようとする意識である。

その結果、インクルーシブ型学級では、教師の「認知的共感性」が、②架け橋対応と③個別対応の二つに影響していた。また、「認知的共感性」は管理意識を媒介して①全体対応にも影響を及ぼしていた。一方、アイランド型学級では、教師の「管理意識」と「認知的共感性」が、③個別対応にのみそれぞれに独立的に影響を及ぼしていた(図2)。

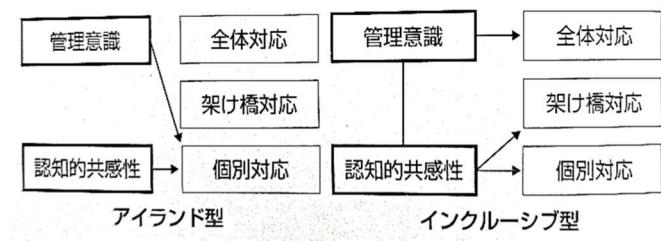


図2 教師の指導意識の違い(深沢,2021)※矢印は影響を及ぼしていることを示す

つまり、インクルーシブ型学級では、教師のすべての指導行動が、子どもへの認知的共感性に基づいて行われていることに対して、アイランド型学級では、個別対応にのみ、教師の共感性が影響している。さらに、個別対応を行うときの教師の意識の中には、学級を管理統制しようとする意識も含まれている。

どうもアイランド型学級の教師のインクルーシブ教育における個別対応への指導意識は、「とにかく対象児を何とかしたい」という点に焦点化されているようである。例えば、「課題の量や内容、方法、環境などを調整して、対象児がうまくできるような工夫をする」という個別対応についても、インクルーシブ型学級の教師は対象児が周囲に認められて喜ぶ姿を想像しながら工夫するが、アイランド型学級の教師はどちらかというと学級全体の進度が遅れないように対象児への支援を工夫するというイメージの違いがみられるのである。

## 3 子どもへの理解と共感をもとにした指導へ

以上からわかるのは、担任教師が同じような指導行動をとったとしても、その背後にある指導意識の違いが、意識的ではない教師の表情や語気、対応のタイミングなどの細部に表れ、それが子どもたちに伝わることによって、インクルーシブ型学級とアイランド型学級という異なる結果を生むということである。

インクルーシブ教育は、けっして課題を抱える子どもをうまく扱くスキルではない。ハンディキャップのある子どもへの理解と共感に基づいて「この子を学級に位置づかせたい、この子を含めた学級づくりにこそ意味がある」と強く願う心が求められる。

したがって、教師のインクルーシブ教育に関する専門的能力の向上には、専門知識や技能(スキル)の獲得だけなく、その背景にある指導意識(価値観、信念を含む)の獲得や変容が必要となる。その意味では、インクルーシブ教育はけっして特別なものではなく、教師が教育において何をめざし、何を大切にするかが鍵となるのである。

## 第2回教育研究所運営審議会～

11月13日(木)に第2回教育研究所運営審議会を開催しました。本年度前期(4月～10月)の事業実績(下記9項目)について報告、意見交換を行いました。

皆様からいただいたご意見等は、今後の運営・研究推進に生かしていきたいと思います。

\*前期事業実績(抜粋)

### 1. 教職員の資質向上の取組

【補助事業】

(1)教育研究推進事業:土佐清水市教育研究集会(市教研)[全体会・部会研修]の運営

・教研推進委員会の開催(年6回 含一日教研準備会)

第1回4/11 第2回7/22 第3回8/1(準備会) 第4回(メール配信11/6) 第5回12/4  
第6回2月予定

・教研活動

①組織教研4/30 ②代表者会(資料送付6/26) ③一日教研8/1 ④半日教研11/5  
⑤総括教研(部会ごとに開催)

(2)教育研究活動事業:研究協力校(2校:三崎小・清水中)の取組

### 2. 転入教職員研修会(地域学習会)の開催(年2回:①5/27 ②8/21)

### 3. 調査研究の推進

(1)「ふるさと」を探究課題とし、小・中・高12年間を通して「21世紀のジョン万次郎」の育成を目指す、探究的な学びの在り方の研究に努めます。

・市内小中高等学校の「総合的な学習(探究)の時間」の授業や領域部会等への定期的な参加を行い、現状を把握する。

・中学校の指導案検討会に参加する。

・先進校の取組に学ぶ。

(2)【連携・支援】学力向上検討委員会(年2回:①9/22 ②2月予定)

①各校の全国学力学習状況及び標準学力調査の結果について ②今後の学力向上に向けた取組について ③県学力定着状況調査に向けて ④検討課題等の確認

### 4. 豊かな心と健やかな体の育成の取組

①定期的な学校訪問(児童生徒の状況把握・情報交換等)

②教育支援コーディネーター(あすなろネットワーク)連絡協議会の開催  
(年4回: ①5/16 ②8/25 ③11月27日 ④1月予定)

③適応指導教室「あすなろ教室」への支援

### 5. 情報教育に関する事業

・HPの更新等…GIGAスクールサポーターによる支援

### 6. 資料収集に関する事業

①教育資料(図書・教材など)の購入・紹介

②市民図書館所蔵DVD(平和教材)の紹介

③令和7年度中学校教科用図書(含む採択図書)の展示

### 7. 刊行物

①『研究所要覧』の発行

②『研究所だより』の発行(4月No.484～10月No.490)

### 8. 教育研究所運営審議会(年3回:①6/10 ②11/13 ③3月予定)

### 9. 高知県教育研究所連絡協議会(年2回)

①春季教育研究所連絡協議会(6/6 オンライン研修)

②秋季教育研究所連絡協議会(11/21 宿毛市大会)

## ◇書籍紹介◇

新しい本を購入しました。読んでみませんか。

書籍の貸出も行っていますので、ぜひ教育研究所へお越しください。

①「学級の仲間づくりに活かせるグループカウンセリング 対人関係ゲーム集」

監修者:田上不二夫 著者:伊澤 孝

(金子書房)

本書は、「対人関係ゲーム」を繰り返し実施することで人間関係や集団活動が苦手な子どもたちがコミュニケーションのとり方や集団のなかでの関係のもち方を自然に学んでいけるような内容が紹介されています。

②「エンカウンターこんなときこうする！ ヒントいっぱいの実践記録集」(小学校編)

編著:諸富 祥彦 千葉市グループエンカウンターを学ぶ会 (図書文化)

③「エンカウンターこんなときこうする！ ヒントいっぱいの実践記録集」(中学校編)

編著:諸富 祥彦 千葉市グループエンカウンターを学ぶ会 (図書文化)

本書は、学校でエンカウンターを生かすとは(いまなぜエンカウンターなのか、エンカウンターはどう実践されているのか、学校にどう位置づけるのか、エンカウンターを実践するコツなど実態の把握からプログラム作り、効果のとらえ方まで、実践の記録満載の一冊です。

